

特別講演 2

「高血圧治療の新たな旅立ち ～愛の目盛りを考える～」

旭川医科大学 内科学講座 循環・呼吸・神経病態内科学分野 教授
長谷部 直幸 先生

降圧療法によるイベント抑制効果は、降圧薬の種類ではなく、主に降圧それ自体によるものである。

最近、欧米を中心に行われたいくつもの大規模臨床試験結果から、各種ガイドラインが見直され、降圧目標値は緩和される傾向にある。しかし、虚血性心疾患よりも脳卒中が圧倒的に多い我が国において、厳格な降圧による脳卒中の確実な抑制効果は重視されるべきである。

降圧治療の様々な問題点を踏まえながら、家庭血圧測定が当然とされる時代にも診察室血圧測定は重要であることを強調したい。脳・心・腎の保護と降圧治療について、我々の成績を含めて解説し、降圧治療の主要な選択肢となりつつある ARB・Ca拮抗薬合剤への期待についてもふれたい。